

2024年7月22日

YACかわら版 478

衛星を運ぶ帆船



見事な「カノピー」の空撮写真です。③
この船の特徴を、見事にとらえています。

<https://x.com/karlosmeybe/status/1808937668270531056/photo/1>

帆をあげる4本のマストの様子が、想像できる2枚の写真です。

マストいっぱい高く帆をはる



<https://maritime-executive.com/article/ro-ro-cargo-ship-for-european-space-agency-unfurls-its-sails>

「発射場への輸送のために積み込まれる Sentinel-2C」という表題で、ESAのウェブサイト写真①が掲載されていました。

https://www.esa.int/ESA_Multimedia/Search?SearchText=sentinel+2c&result_type=images



工場での台車への積込



センチネル1Cよりはやく、9月にセンチネル2Cが打上げられるのか...という感想でしたが、数日後この衛星を製作したエアバス社のサイトを調べていると、積み込んだ貨物船の名前が「Canopée (カノピー)」というのです。この船は2022年にポーランドのネプチューン造船所で建造されました。写真②③にあるように、帆を張ってジーゼルエンジンとの組み合わせで航海できます。

これまでの一般的な帆船というイメージとずいぶん異なりますね。「カノピー」はESAギアナ宇宙センターの打上場がある、南米のフランス領ギアナのパリアカボ港に、宇宙関連物資を運ぶためのRoRo船（貨物を積んだトラックや荷台ごと輸送する船舶）です。航海日数は約10日間で、7月18日に到着したようです。

全長121m 全幅 22m 総トン数10669トン

<https://www.airbus.com/en/newsroom/press-releases/2024-07-airbus-built-copernicus-sentinel-2c-climate-satellite-heading-for>



センチネル2計画は、
センチネル - 2A (2015年打上)
センチネル - 2B (2017年打上)
という2つの同一規格の衛星と
共同で観測を展開します。

すなわち、観測を効率的に行うため、同一地点を観測する間隔を観測時刻を調整するため、同じ衛星軌道を、180°離して飛行します。衛星は100分ごとに地球を周回し、5日毎に観測対象にしている場所をカバーします。今後センチネル-2Cは、センチネル-2Aに置きかわります。更にセンチネル-2Dが打上げられセンチネル-2Bに置きかわり、2035年以降も観測を継続するそうです。

* 特記のない画像は、すべて©ESAです。